

**新型コロナ感染者数が増加傾向に**

新型コロナ、感染症法上5類に移行してから患者数の増加が続いているそうです。現在、新型コロナの患者数は定点医療機関当たりの報告数になっています。

5/08~5/14	2.63人
5/15~5/21	3.55人
5/22~5/28	3.63人
5/29~6/04	4.55人
6/05~6/11	5.11人
6/12~6/18	5.60人
6/19~6/25	6.13人

感染者数の増加傾向は継続し、

夏の間在一定規模の感染拡大が生じる可能性があると言われ、医療関係内では今の状況は新型コロナの流行が始まったという肌感覚なのだそうです。今一度気を引き締めて感染対策を各自行う必要があります。

**食品用ラップの切口が行方不明になったとき**

食品用ラップの切口がわからなくなり、必死で探すも関係ないところがめくれてしまったりしてラップを駄目にしたことがないでしょうか？。端をちぎってみたり、時には使うのをあきらめて無駄にしてしまったことが何度もある私。

こんな状態になったときに解決する方法を花王(株)がInstagramで提案しています。

準備するのは輪ゴムで、1本より2本のほうがより効果的だそうです。

①用意した輪ゴムの端を、そ

れぞれ利き手の親指と小指に引っかけます。

②次に、利き手でラップの筒を包むように握ります。輪ゴムが筒に当たるように握り込みます。

③そのまま手首を何度か左右に回してみます。

すると切り口が輪ゴムに引っかかり端がぺろりとめくれるそうです。今度この状態になった時には是非試してみようと思います。

＼必要なのは輪ゴムだけ！／



輪ゴムは1本より2本が効果的！

輪ゴムをつけた手で握って回す



**台風の強さと雨**

先月初めに台風2号と活発な梅雨前線によって記録的な大雨となり、静岡など8県23地点で24時間降水量の過去最多を更新しました。この大雨がいかに強く広い範囲に及んでいたかがわかります。当時、ラジオで気象予報士の方が、天気図を見るだけでちょっと怖いと話されていたの思い出します。

ここで気になったのが台風と雨の関係ですが、台風の強さは風の強さだけで決まっているということです。よく天気予報で台風情報を報道するときに、『強い台風』『非常に強い台風』などというのを聞いたことがあると思いますが、これを決めてい

るのが風の強さです。台風は熱帯低気圧という、いわば台風の卵の勢力が増して風が強まったもので、熱帯低気圧の中心付近の最大風速が毎秒17.2メートル以上になったときに台風と呼ばれるようになります。風がより強まると、『強い台風』『非常に強い台風』『猛烈な台風』と呼び方が変わっていきます。

台風の風の強さを身近なもので置き換えると、熱帯低気圧から台風へと呼び方が変わった時点で高速道路を走る自動並みの早さの風が吹いています。さらに猛烈な台風になると風速は毎秒54メートル以上にもなり、こうなると自動車が横転したり、鉄筋コンクリートでできた建物でも損

害が出ると言われています。

台風の強さは風の強さはわかっても雨の強さはわかりません。強い台風イコール風が強い台風なのであって、雨が強い台風に決まった呼び方はありません。さらに今回のように梅雨前線に台風が湿った空気、つまりは大雨のもとを補給すると、台風から離れたところでも大雨による大きな災害が起きる恐れがあります。また、大雨が降るイコール積乱雲の仕業ですから落雷、竜巻などの突風、雹などの災害が起きる恐れもあります。台風が日本の近海にある時は、どこでどのくらいの時間、どれほどの雨が降るのかも確認する必要があります。

**普通鋼と特殊鋼**

純粋な鉄(Fe)だけを含むものを純鉄と言います。これは軟らかすぎて実用には向きません。また、製造も非常に困難なものです。合金の研究などで使われますが、現在では電気的方法で作られ 電解鉄などとよばれます。鉄の純度が99%以上です。

一般に使われるのが鋼で鉄に2%以上の炭素が含まれたものです。炭素だけを主な合金元素 とする炭素鋼とこれに炭素以外の合金、例えば、マンガン、珪素、ニッケル、クロム、銅、モリブデン等々を加えた合金鋼とに大別されます。特殊鋼という名前は、合金元素の種類、製造法、ま

たは熱処理に特別な配慮が払われる鋼であり、合金鋼ばかりでなく、高級炭素鋼(例えば工具鋼、はだ焼鋼、打刃物用地鉄など)を含む広い意味をもっているということのようです。これに対して、通常の大量生産方式で生産される炭素鋼を普通鋼と呼んでいます。

ヨシナカ新聞

7月号  
発行所

株式会社ヨシナカ  
東京営業所

TEL: 03-3555-0796